

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

組織には倫理観と責任感のあるマネージャーが必要

ジェニー・ダロック (米ピーター・F・ドラッカー伊藤雅俊経営大学院学長)

1. ピーター・ドラッカーは経営理論の人という印象が強いと思いますが、彼の出発点は、人間に対する洞察でした。ユダヤ人だった彼は、生まれ育ったオーストリアを離れて米国に移住しましたが、欧州でナチスが台頭していく様子を目の当たりしていたのです
2. 彼は、人々が同じ過ちを犯さずよりよい社会を実現していくには、多くの人が最も時間を費やす職場のマネージメントを機能させることが重要と考えました。そのために、倫理観と責任感のあるマネージャーが組織を率いるべきだという理論を唱えたのです。さらにイノベティブとは人々の生活を向上させ、よりよい社会を実現するものだとし、経営者は常にイノベティブでなければならない、と説きました。経営の手法ではなく人と組織に視点を置いたからこそ、ドラッカーの経営理論は現代にも通じるのだと思います。
3. 日本の企業は多くのイノベーションを生じてきました。しかし最近では、品質にかかわる不祥事が相次いでいますが、日本企業は、問題を克服し、新しいイノベーションを生んでいくことができると考えています。そのために、社内の資源を徹底的に見直すことが必要です。イノベーションの鍵は社内にあると思います。外部の技術と社内のコアコンピタンスを結びつけるような発想も求められます。
4. 日本企業の場合、伝統があるゆえに変わりにくい面があるかもしれません。しかし組織を正しい方向に導き、作り変えていける人が優れたリーダーです。経営者は常にイノベティブでいる責任があるので。(参考:「日経ビジネス」2017年11月13日号)

経営者のための理念・哲学

ミッションを進化させ持続発展へ

岩田 松雄 (元、スターバックスコーヒーCEO)

1. 一般的にCSR活動については、寄付金やボランティア活動を通じて社会に利益を還元するという考え方です。そもそも企業の存在理由(ミッション)は、利益の追求ではなく「事業を通じて世の中を良くすること」だと考えています。利益はそのための手段であること。本来は自分たちの本業である商品やサービスの提供を通じて世の中に貢献できていることがまず大切であり、事業そのものがCSRであるべきだと考えています。
2. 事業そのものが社会に貢献できていなければ、企業は長く存続できません。長寿企業は、世のため人のためというミッションをきちんと持っています。経営者は、まず「自分のため」に起業したとしても、それが次第に「従業員のため」「地域のため」、最終的には「社会のため」というようにミッションを進化させて行くべきです。だからこそ企業が持続発展して行くのです。

(参考:「週刊東洋経済」:2017年11月18日号)

人事・労務について

自責の人であること

落合 實司 (西武信用金庫理事長)

1. 時代背景によって求められる資質や行動は変わっていくものですが、今のような変革期は、まずポジティブであること。いろんな課題に前向きにトライできる人であることがまず大事だと思います。もう一つは夢や目標、志を明確に持つこと。
2. 三つ目は自責です。難しい変革期においては、上手くいかないこともたくさんあって、原因を外に求めればいくらかでもあります。しかし、そんなことをしていても何も変わりません。大事なことは、自分の何を変えたらいいのか、自分のどこに原因があるのか、自分がどう変わればいいのかを考えること。そういう自責の人であることが、とても大切だと思います。

(参考:「致知」2018年2月号)

古典に学ぶ

商人でも農人でも誰にでも通用する教えである(論語)

(解説) このたびは論語をくわしく攻究しておるので、いろいろな点に気がついて悟るところが多い。しかし論語は決してむずかしい学理ではない。学者がむずかしくしてしまい、農工商などの与かり知るべきものではないというようにしてしまった。商人や農人は論語を手にするべきものではないというようにしてしまった。これは大いなる間違いである。かくのごとき学者はたとえばやかましき玄関番のようなもので、孔夫子には邪魔物である。孔夫子は決してむずかし屋でなく、商人でも農人でも誰にでも会って教えてくれる方で、孔夫子の教えは実用的の卑近の教えである。

(参考: 渋沢栄一「論語と算盤」: 国書刊行会)